

# 算数科 小学校 4年

単元名 がい数とその計算  
啓林館「わくわく算数4下」

## 単元の流れ（全6時間）

【第1時】

### 主な学習内容

概数に関心を持ち、その意味を理解し、概数の表し方を調べる。

#### 「活用」の力の育成のために

身近な場面設定(サッカーの試合の入場者数や京都府の人口)から問題場面の的確に読み取らせる。①

【第2時】

### 主な学習内容

上から1、2桁の概数にする仕方を理解する。  
身の回りから概数を見つける。

【第3時】

### 主な学習内容

四捨五入の意味に基づいて、概数の表す意味を考える。(本時)

【第4時】

### 主な学習内容

グラフの目盛りのとり方から概数のとり方を判断し、棒グラフに表す。

【第5時】

### 主な学習内容

電卓を使って大きな数の計算をする。  
「和」「差」「積」を知り、それらを概数で表す。

#### 「活用」の力の育成のために

概数の表す範囲を考えたり、説明したりする場面を設定する。②③

【第6時】

### 主な学習内容

評価テストをする。

単元目標

○概数の意味を理解し、四捨五入によって、概数を求める。

### 単元構成の意図

「およその数」は日常用語であるが、「概数」は算数用語である。「およその数」については、この学年までに、無意識のうちに「およその数」を使って日常生活で生じる問題を処理したり、判断したりする経験をしている。

本単元では、「およその数」に関する児童の学習経験や認識を掘り起こし、「数の近さ」「簡潔さ」の観点から「概数」の意味づけを図る。また、実数を「概数」で表す理由を考察させる単元構成にし、思考力を育てていく。

「概数」で表す数については、大きな数であり、抽象的なので、数直線や具体的な場面をできるだけ取り入れて、児童が考えやすいようにする。

単元の終盤では、この単元の学習が生かせるように、電卓を積極的に使い、日常化を図る。

### 「活用」の力を育てるポイント

- ①児童の生活や経験に基づいた場面設定をすることで、問題場面の的確に読み取る力を付けさせる。
- ②「概数」を使う意味を考えさせる場面を多く取り、考える力を身に付けさせる。
- ③自分の考えを根拠を示して説明する力を育てるために、グループでの話し合いや全体協議の場を多く設定する。

HOME

本時の流れへ

評価問題